

宮座と長老

宮座の類型論試論

An Essay on Typology of Miyaza: A Ritual Organization Generally Focused upon the Shrine of the Local Tutelary Deity, *Ujigami*

関沢まゆみ

はじめに

①宮座の類型論的把握へむけて

②宮座の運営

まとめ

【論文要旨】

本論文の目的は、第一に宮座研究推進の一環として宮座の類型論を試みることにあり、第二に具体的な事例分析を通して、類型論を個別事例研究の関係において検証することにある。

これまでの宮座の研究により、宮座の主要な構成要素として、長老衆、神主、当屋が存在することが指摘されてきた。それに対し、本論では、神主と当屋の両者について、あらためて民俗語彙による分類ではなく、神祭りにおける機能に注目し、神祭り役Aと世話役Bととらえ直し、あらたな分類を試みた。長老衆の存在する宮座において最も中心的な神祭り役であるAをつとめる人物を基準とする分類により、Ⅰ：長老衆が神祭り役Aをつとめるタイプ、Ⅱ：座衆が神祭り役Aをつとめるタイプ、の2類型を抽出した。そして、Ⅰ・Ⅱいずれのタイプにおいても神祭り役Aは長老衆に密接的な役割であると位置付けることができた。長老衆は豊田武の分析によると、中世において一般座衆から特化される形で発生したものと想定されているが、長老衆が一般の座衆から特化される過程でAの役割が彼らの役割として吸収されていったものと推定される。それに対して、Bの役割は必ずしも長老衆に密着せず、一般の座衆のつとめとされているが、それらはいずれも座入りもしくは長老入りなどの加入儀礼として位置付けられるかたちとなっている。また、肥後和男が指摘しているAB一致型とAB分離型との関係については、そのAとBとがいずれも民俗語彙の上では「神主」と呼ばれたり「当屋」と呼ばれて、両者の呼称が交錯していることなどから、AとBが同一人物によってつとめられるタイプ、つまりAB一致型が基本的な形であると推定された。そして、奈良市大柳生の宮座の事例分析により、Aの役割はやはり長老衆に密接するものであるということが確認され、また、AB分離の過程を具体的に追跡することができた。

キーワード：宮座、長老衆、加入儀礼、神祭り役、世話役